

トンボを呼ぼう ー「コンテナビオトープ」の作り方ー

生垣やフェンス、既存の植栽
などを利用し、西日を避ける



身近な生き物の
保全再生(市街地)

■コンテナビオトープをつくろう

トンボは、卵～幼虫時代を水中で、成虫時代を地上で過ごす昆虫です。そのため、その生息には、「水辺」が必要となります。コンテナビオトープは、トンボの生活で最も大事な水辺環境を用意することで、周辺に生息しているトンボを呼びこみます。

トンボは種類によって好む水辺環境が異なりますが、大きく分けて池や湖沼などの止水域に産卵するトンボと、小川などの流水域に産卵するトンボに分けられます。流水環境を作るには大がかりな設備が必要となりますので、コンテナビオトープでは主に止水域に生息するトンボを呼びこむことができるように設計しています。

■コンテナビオトープ設計のポイント (図1)

- ①トンボが休息や産卵する浮葉植物や抽水植物などの水生植物を植える
- ②ヤゴの生育や水温上昇を防ぐため、十分な水深(約30cm)を確保する
- ③ヤゴが羽化する際に止まる抽水植物や棒を配置する
- ④水生植物はコンテナ全面に広がるのを防ぐためにプランタに植え、コンテナに沈める

■コンテナビオトープを設置する場所の注意点

- ①トンボが上空から水面を発見できるよう、樹木の枝張りや屋根の底の下は避ける
- ②余計な日差しによる水温の上昇をなるべく避けるため、西日の当たる場所を避ける
- ③水生植物やコンテナの水深を管理するために、近くに水場がある

■どんなことがわかるか

トンボは、その種類によって、ため池、水田、湖沼、小川など、様々なタイプの水辺を利用しています。また、水辺に植生があるかどうかも重要です。そのため、コンテナビオトープにどんなトンボの種類が飛来してくるかを調べることで、周辺にどのような水辺環境があるかを知ることができます。

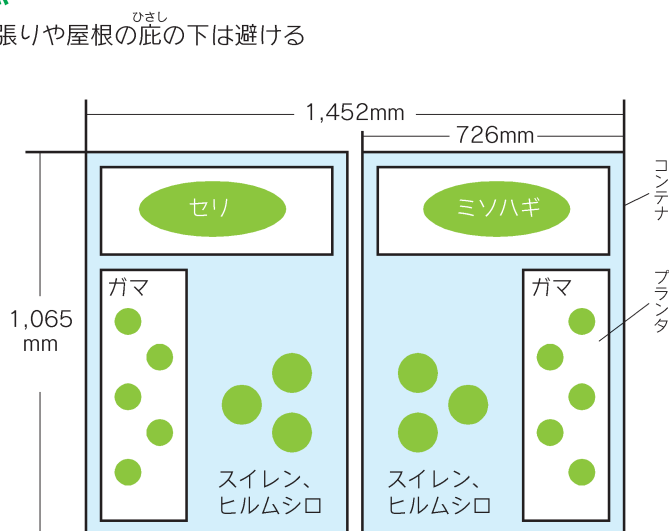


図1 コンテナビオトープの平面図